

マンガで学ぶ予防接種 ～染子先生のおはなし～

その⑦

ロタウイルス胃腸炎ってなあに？

国立感染症研究所 感染症疫学センター



ロタウイルス胃腸炎とは？

ロタウイルスが引き起こす胃腸炎は、急な嘔吐おうとと水のような下痢げり便が特徴です。発熱は3割から5割程の割合で見られます。

時に、嘔吐・下痢がひどくなって、脱水状態になったり、けいれん（ひきつけ）を起こすことがあります。腎臓の機能が悪くなったり、脳症を起こすこともあります。

子どもが重症の胃腸炎で入院する場合、ロタウイルスが原因であることがもっとも多いとされています。

ロタウイルスワクチン

ワクチンは2種類あり、ヒトロタウイルスの病原性を弱めて作った1価弱毒生ワクチンと、ウシとヒトのロタウイルスの遺伝子を組み換えて作った5価弱毒生ワクチンです。

いずれのワクチンも、口から飲むタイプの経口ワクチンであり主には、次に挙げる遺伝子型のロタウイルス G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8] による重症の胃腸炎に対して予防効果があります。ただし、ロタウイルス以外が原因の胃腸炎を予防することはできません。

ロタウイルスワクチンの副反応として、稀ながら腸重積症があります。

ワクチンを受けた後、特に、接種後1～2週間以内に繰り返し起きる嘔吐おうとや不機嫌、周期的にお腹が痛そうに泣く、血便、お腹が張る、ぐったりとしていたり顔色が悪かったりするといった症状が1つでもみられた場合は、腸重積症の可能性もあるので、すみやかに医療機関を受診してください。

腸重積症の発症が高まる可能性のある、未治療の先天性消化管障害（メッケル憩室など）や、過去に腸重積症になったことのある赤ちゃん、重症の下痢げりの発症が高まる可能性のある重症複合型免疫不全症（SCID）の赤ちゃんは、接種を受けることができません。

出典：『予防接種と子どもの健康 2020年度版』より引用一部改変



定期接種の対象・接種方法

〔接種週齢〕 1価：^{★1}出生6週0日後から出生24週0日後まで

5価：出生6週0日後から出生32週0日後まで

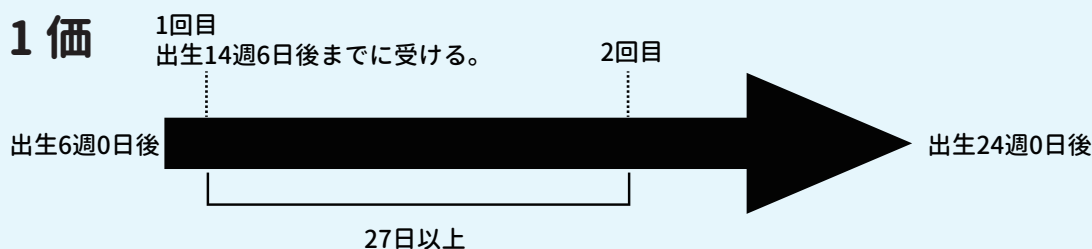
〔接種間隔・回数〕 1価：2回(27日以上の間隔をあけて2回目接種。出生24週0日後までに完了)

5価：3回(1回目と2回目、2回目と3回目は27日以上の間隔をあけて接種。

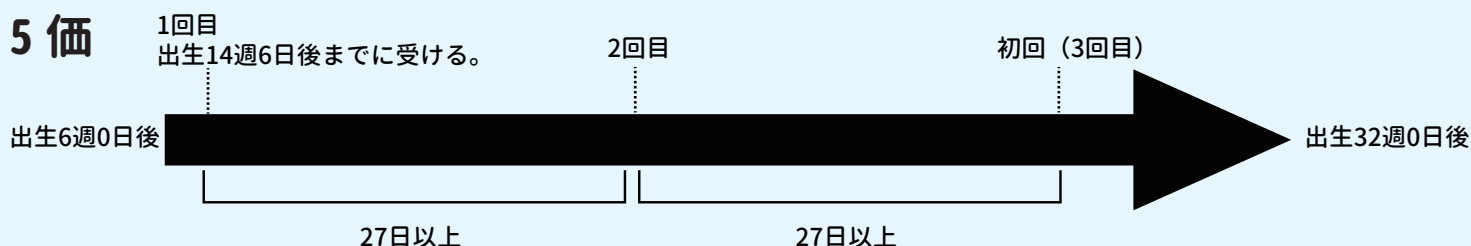
3回目の接種は出生32週0日後までに完了)

※接種時期が遅くなると、腸重積症の発生割合が増加するため、1回目は生後2月に至った日から出生14週6日後までの間に受けることが大切です。ロタウイルスワクチンは出生6週0日後から接種を受けることができますが、初回接種の標準的接種期間は生後2月に至った日から出生14週6日後までとされています。

1 価



5 価



ロタウイルスワクチンが導入されてからは、ロタウイルス感染症が減少しています。さらに、直接効果だけでなく集団免疫効果も認められています。

ロタウイルスワクチンについては、令和2(2020)年8月1日以降に生まれた赤ちゃんを対象に令和2(2020)年10月1日から定期接種となりました。

有効性、安全性を考えた上で、接種年齢の幅が決まっているので、初回接種は、生後2月に至った日から出生14週6日後までの間に受けましょう。

かかりつけの小児科の先生とよく相談して、赤ちゃんをロタウイルス胃腸炎から守ってくださいね！